

新ケミカル商事は中期経営ビジョンに掲げた「儲かる力、耐えうる力、アピールする力」の3つの力の強化を主眼に事業活動を推進する。2025年度に設定していた売上高1000億円の目標を前倒しして今年度の目標とし、下期もその達成に向けて邁進する。

また、来年4月からの新中長期計画（中期目標26年度、30年度、長期ビジョン2050）の策定に取り組んでおり、ここで新たな将来像を掲げる。

油嶋武晴社長は「上期は肥料原料価格の値下がりや買い控え、在庫の評価損で苦戦した。中国の景気減速や半導体不調などの影響もあったが建材事業を始め国内事業は比較的好調に推移した」と述べる。下期については「アグリセグメントは影響が続くそうだが、上期ほどの減益は避けられる。他のセグメントは濃淡があるが予算を達成できる見込みだ。建材はおおむね堅調。鉄鋼業向けの新規機材の受注拡大が実現し下期の利益貢献に期待している」と

新ケミカル商事

3つの力で事業活動推進

言う。

同社は今年1月に昭光通商から昭光通商アグリ、昭和培土、昭光ファームネットの肥料関連会社3社を譲受し、シナジーを發揮している。来年4月には昭

光通商アグリとみらいアグリを合併しNCTアグリとして事業展開する予定となっている。

新規事業では、先端材料営業部が軽量化に向けた異種複合フィルムを開発中。その他、各セグメントが環境リサイクル、カーボニュートラルなどをテーマに持続可能な開発目標（SDGs）貢献に向けて新規開発に取り組んでいる。

海外では上海、香港、台湾、シンガポールの4拠点で展開しており、事業強化に注力している。2年前に設立した台湾の新化美台湾で新規案件が増えており増員を検討している。マレーシア拠点の復活も模索中。

また文化支援活動として今年から新たに福岡県の石田卓球クラブや女子バレーV3リーグのカノアラウレアーズ福岡への協賛も行っている。